

富士  
伊豆

# インバウンド通信

Vol.1

2026 04 30

**New!**

## 富士・伊豆地区でインバウンドに特化した情報を発信します

静岡県伊豆観光局です。

当局では伊豆半島をはじめとする県東部地域のインバウンド誘客拡大に向け、今年度から新たに、「富士・伊豆インバウンド通信」を発行します。先進的な取組やインバウンド市場の最新の動向などを分かりやすく紹介し、インバウンド誘客や受け入れのヒントとなる情報の掲載を目指します。

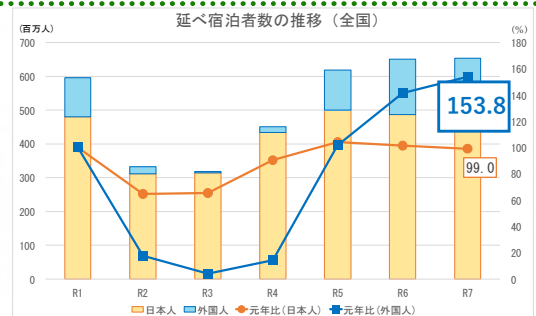
### Contents

- ◆ 統計からみる静岡の「現在地」～増える訪日客と本県の現状～ . . . . . P 1
  - ・外国人延べ宿泊者数
  - ・静岡県のインバウンド旅行者の国籍内訳
- ◆ 在住外国人に聞く「伊豆の魅力」  
～モロイ・ジェームズ・デイビッド氏からのメッセージ～ . . . . . P 2-3
- ◆ 昨年度の取組～伊豆半島インバウンド誘客促進事例集ほか . . . . . P 4

## 統計からみる静岡の「現在地」～増える訪日客と本県の現状～

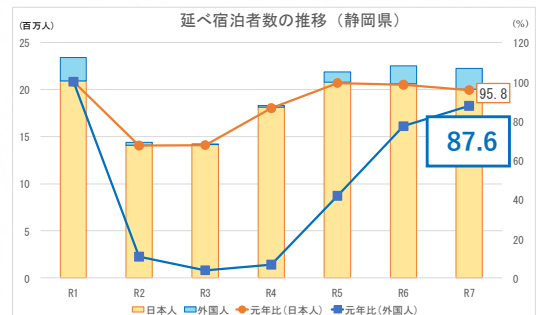
### 全国の動向

訪日外国人旅行者数はコロナ禍前を上回る水準まで回復し、全国的にはインバウンドは大きく伸びています。観光庁の「宿泊旅行統計調査」を見ると2025年の全国の外国人延べ宿泊者数は1億7,787万泊と、コロナ禍前と比較して153.8%の数字となり、大きく増加していることがわかります。



### 静岡県の動向

その一方で、静岡県は約218万泊（コロナ禍前比87.6%）にとどまっており、回復が遅れている状況にあります。全体の延べ宿泊者数のうち、インバウンドの割合は全国は27.2%あるのに対し、静岡県ではわずか9.8%となっており、県のインバウンド取り込みはまだまだ発展途上であるということが言えるでしょう。



### 来訪者の特長

また、静岡県に来訪する訪日外国人のうち40%は中国の方々で、依存度が高い状況にありますが、全国ではさまざまな国・地域の伸びが全体の伸びを牽引しています。日本への注目度が高まり、訪日外国人旅行者数が増加する中、世界から多くのお客様に来ていただくためには、地域総がかりでプレゼンスを高め、地域の魅力を満喫していただけるよう仕掛けていく必要があります。

### 格言・名言

“Don't let yesterday take up too much of today.”

(昨日のことにとらわれていると、今日が奪われてしまう。) ウィル・ロジャース

## 富士・伊豆在住外国人に聞く「伊豆の魅力」



インバウンド誘客を図る上で、伊豆の魅力について外国人の視点に立って深掘りする必要があります。

今回は、静岡県に31年間在住し、伊豆について熟知されているモロイ・ジェームズ・デイビッド氏に伊豆の魅力やインバウンド受入のポイントについて、お話を伺いました。

エルスリー株式会社 代表取締役

**モロイ・ジェームズ・デイビッド 氏**

カナダ出身

《エルスリー株式会社について》

場所： 三島市芝本町

活動： 英会話レッスン、デザイン、翻訳等

### 伊豆に住むことになった経緯

カナダで母が読んでいた小説「SHOGUN」(※)が日本を知ったきっかけです。その後、東京や富士山から近いという理由から21歳の時に静岡に移住しました。当初はワーキングホリデーで1年間だけ住む予定でしたが、**あっという間に31年**。

現在は語学のレッスンやデザインの仕事を始め、英語で楽しむワークショップ(テイステイング、クラフトビールやみしまコロッケの食べ歩き等)を通じて地域の魅力を再発見するようなイベントも企画・開催しています。

※「SHOGUN」…ジェームズ・クラベルによる戦国時代の日本を舞台にした歴史小説。(1975年発行)



◆東京五輪・パラリンピックで訪れる外国人客への対応について講演するモロイ氏(2021年)

### 伊豆の魅力は「そのままの良さ」

まず思い浮かぶのは、やはり富士山です。それに加えて、自然や美味しい食べ物、海や山など、本当に**伊豆には全部ある**と感じています。

伊豆に行くときは、よく旅館や民宿に泊まります。**旅館は着物や女将さんなど、まるで映画のような雰囲気**がありますし、**民宿は人の家に一緒に住んでいるような感覚**が魅力的です。

昭和の雰囲気のあるホテルも良いと思います。70年代のような雰囲気、私たちもノスタルジックに感じます。



◆街歩きイベントで地域や日本の魅力を再発見

**無人販売も魅力的**です。カナダでは見かけないし、当たり前ではないと感じます。ミカンやイチゴ、タケノコ、ワラビなど、季節ごとに並ぶものが違って、見つけると毎回立ち寄ってしまいます。ここでしか味わえないものをぜひ多くの人に食べて欲しいですね。

伊豆の**ゆっくり感**も気に入っています。お店の数は多くないかも知れませんが、その分ゆったりとした時間が流れていると感じます。

伊豆の良さはそういった**「そのままの雰囲気」**にあると思います。無理に手を加えなくても、そのままの魅力が何より一番です。

## インバウンドに"刺さる"スポット

伊豆の地形や海が織りなす景観や、海越しの富士山を見ることが出来る場所が特にオススメです。

例えば松崎町にある雲見浅間神社は、見晴らしがとて  
も良く、山の上からの景色が息をのむほど素晴らしい  
です。

家族や友人が日本に遊びに来ると、よく伊豆を案内し  
ます。三島から西伊豆のルートも気に入っていて、葛城  
山の山頂の風景を見て、土肥で食事を取り、黄金崎、  
堂ヶ島を楽しんでいますが、インバウンドにも必ず刺さる  
と思います。



◆モロイ氏がこよなく愛する雲見浅間神社からの絶景  
友人家族が来れば、必ず連れて行く (同氏撮影)

## 魅力的な食や体験



◆編集した冊子では地元・三島の食も「深掘り」

食べ物では、アジや金目鯛など**ここでしか味わえないもの**が特に  
良いです。あとはやはりワサビですね。伊豆のワサビは本物のワサ  
ビで、海外でよく知られている西洋ワサビとはまったくの別物です。  
これを自分ですりおろして、お肉やお刺身と一緒に食べるのは**伊豆  
でしか出来ない体験**だと思います。

以前、海外から6人ほど伊豆に来た時に、沼津港で太刀魚やアワ  
ビ、ホタテ、アジなど海鮮を買ってそのまま港でBBQをしましたが、  
これがすごく好評で、「またやりたい」と言われました。**港の隣で自  
分で買った食材をその場で焼いて食べる体験は特別**に感じてもらえ  
たと思います。

歩いて町をめぐるのもオススメです。観光地だけではなく、地域の居酒屋に入ってその土地の美味しいものを食べ  
る。そういう過ごし方が一番印象に残るのではないかと思います。

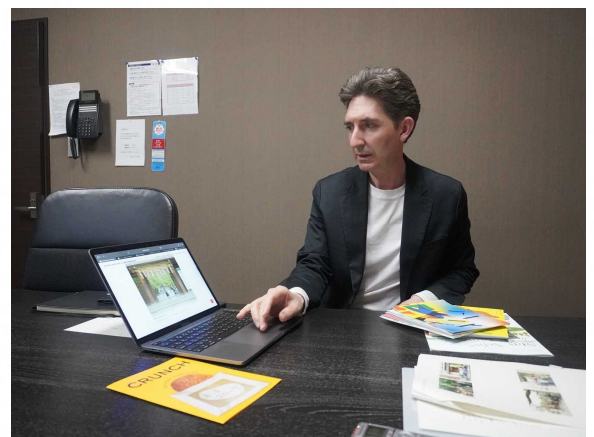
やはり、「**ここでしか食べられないもの**」「**ここでしか出来ない体験**」が大事だと思います。

## インバウンド受け入れの可能性

やはり、**情報発信**が重要だと思います。**伊豆を知らないという  
人が多く、本当にもったいない**です。東京や京都、富士山の情  
報は多く出ていますが、伊豆はあまり出てこないですし、**知られ  
ていない**印象があります。伊豆の景色や東京からのアクセスの  
良さをしっかり伝えれば、「行ってみたい」と思う人はかなり多  
いと思います。

実際に家族や友人を案内すると、「**本当に来て良かった**」と  
言ってもらえます。東京や京都と違って伊豆はまだ知られてい  
ない分、行ったことが自慢にもなります。

ユニークな体験ができて、なおかつ東京から新幹線ですぐに来られる。この**条件が揃っている場所は伊豆だけ**  
だと思います。



◆「情報発信が大事!」と訴えるモロイ氏

# 令和7年度に実施した取組

## 1 三島駅インバウンド誘客検討会の実施

JR三島駅は多くのインバウンド観光客が利用していますが、県内を巡る動きはあまり見られず、東京や京都、箱根、河口湖といった他の観光地へ向かう傾向が強く、本県が持つ魅力を十分に活かしきれていないと考えられます。

こうした状況を受けて、当局では昨年度、「三島駅インバウンド誘客検討会」を開催しました。観光関係事業者等へのヒアリングや三島駅外国人旅行客動向調査の実施、観光庁のデータ分析等に基づき、方策を整理しました。

## 2 伊豆半島インバウンド誘客促進事例集を発行

伊豆半島へのインバウンド誘客拡大に向けた地元関係者の意識を高めるとともに、具体的な事例を示し、地域や事業者の取組を加速するため、「静岡県伊豆半島インバウンド誘客促進事例集」を制作しました。

### ◆伊豆半島地域の14事例を紹介

事例集では、伊豆地域の資源に着目し、ユニークな工夫と熱意をもってインバウンド誘客や受入体制強化に取り組む事業者をとりあげ、宿泊施設や観光施設、アウトドア体験、ツアー造成、地域一体の取組などの14事例について、特長的な取組や独自性、磨き上げのプロセスを紹介しています。

### ◆座談会を実施 ～在住外国人から伊豆への提言～

伊豆半島在住の外国人3名による座談会を開催し、外国人視点での伊豆半島の魅力やインバウンドの満足度向上につながるポイントについてお話いただきました。

#### ●ハル・ナイヤさん(アメリカ出身)

「ただ見る・訪れるだけでなく、例えば地域のお祭りなどに参加できたら特別感がある。古くから行われ、根付いているものを活かすのが大切。そうしたものに参加し、本物の地域、本物の伊豆に入り込んでいくことができれば素晴らしい体験になる。地域の魅力を観光客に伝えるガイドの存在も大事」

#### ●ラッセル・ウィルスさん(イギリス出身)

「伊豆の豊かな自然や環境を活かすべき。東京、京都、大阪などには見るものも多いが、慌ただしく疲れてしまう。喧騒を離れて伊豆を訪れ、一転して心静かにゆったりとできることをアピールすべき」

#### ●ファヴァロ・マルコさん(イタリア出身)

「地元の人たちが自らが住む地域に誇りを持つことが大切。『うちのところには何もない』という言葉をよく聞かすが、伊豆には素晴らしい魅力、自慢できるものはたくさんある。それを、地元の人自身が、訪れる外国人にもっと伝えてほしい。インバウンドはそういう情報をほしがっている。また、古いものもしっかり残し、継承していくことが大切」

★事例集のデータはこちらから

[https://www.pref.shizuoka.jp/res/projects/default\\_project/page/001/073/720/jireisyuu.pdf](https://www.pref.shizuoka.jp/res/projects/default_project/page/001/073/720/jireisyuu.pdf)



◆発行元◆



静岡県東部地域局  
(伊豆観光局)

P4



〒410-0055  
静岡県沼津市高島本町 1-3  
静岡県東部総合庁舎 2F



電話  
055-920-2139



メール  
toubu-chiiki@pref.shizuoka.lg.jp

公式 SNS



note